

ま え

⑤万江地区 (山江村)

- ◆農家戸数 70戸
- ◆農地面積 65ha(うち27haは水田)

次世代に繋ぐ万江の絆と農業の礎 ～次代を担う子供たちに託すために～



[中山間農業ビジョンの概要]

集落の課題(現状)

- 農業の担い手がない
- 農地の利用率が低い
- 耕作放棄地が増加している
- 過疎化が急速に進展している



目指す将来像

- 農業で食べていける儲かる農業の実現
- 地域に農業の担い手があり、活気ある農業の営み
- 地域の特産を活かした商品化
- にぎやかな地域の実現



具体的方策

- 所得の確保(高単価作物、販売促進、機械化、加工、水稻の裏作、たけのこ栽培、日本酒造りなど)
- 担い手の確保(法人での雇用)
- 農地の基盤整備と集約(畦倒し、排水、農地集積)
- 都市との交流(観光農園、子供たちの農業体験、収穫祭、企業研修など)

[ビジョン策定のプロセス]

ビジョン策定以前

◆狭小な農地で農業の効率化が図れず、高齢化の進行、後継者の不足が著しい。住民は強い危機感を抱いていた。

◆平成28年頃から、村内8地区の代表者10名ほどで、毎月、検討会を実施。

◆集落と農業を維持していくために、農業活性化協議会を作るべきではないかというのが大きな議題となっていた。

未来マップと危機感

◆山江村役場の産業振興課によって「10年後の地域マップ」が作成された。

◆地区内のすべての耕地について、「今、誰が耕作しているのか」「10年後は誰が管理しているのか」などを聞き取り調査し、現状と10年後を比較できるマップを作成。

◆真っ赤になったマップを見て、住民の危機感は非常に高まった。

農事組合法人の設立

◆集落において、法人化へ向けた検討が進められた。鹿児島や八代などへの先進地視察、県主催のセミナー受講などを経て、平成29年6月、農事組合法人「万江の里」が設立された。



農事組合法人「万江の里」

農業ビジョンの策定

◆農事組合法人「万江の里」が設立された翌月、平成29年7月、県および山江村から中山間農業モデル地区支援事業の説明を受け、同年8月、モデル地区の設定が決まった。

◆同年8月から9月にかけてビジョン案の検討が進められ、同年10月、農業ビジョンの作成に至った。



⑤万江地区(山江村) 次世代に繋ぐ万江の絆と農業の礎 ～次代を担う子供たちにたくすために～

[具体的な取り組み 計画と取組現状]

成果目標(令和3年度):①タマネギの作付面積70a増加 ②カボチャの作付面積70a増加 ③学校給食に7品目以上納品

1. 所得の確保

- ◆高単価作物の導入。農産加工。たけのこ栽培。日本酒を造る。
- ◆学校給食へ納品、移動販売や物産館での販売。
- ◆農産物の契約栽培を行う。
- ◆法人を核として、機械・施設の合理化。ICT活用、効率的な農作業。
- ◆米のブランド化。水稻の裏作。

- ◆カボチャ、ナス、ソバなどを導入し、カボチャは評価も高く展開に期待。
- ◆タマネギは試験的に導入したが、不作で価格も低く、休止状態。
- ◆農産物の契約栽培、米のブランド化などは手つかず。
- ◆機械の購入は順調に進んでいる。

2. 担い手の確保

- ◆法人での雇用を行い、担い手の確保・育成を行う。
- ◆法人でフルタイム雇用は難しい。兼業がほとんどで作業に参加できない。
- ◆現状では最低賃金時給790円も厳しいという状況。

3. 農地の基盤整備と集積

- ◆畔倒しを行い、区画の拡大を行う。
- ◆暗渠排水により水田の汎用化を図る。
- ◆法人へ農地を集積し、耕作放棄地の発生を防止する。

- ◆畦倒しは実施。区画拡大により効率が向上した。令和2年度も継続実施。
- ◆排水が悪く、麦の裏作ができない水田あり。令和2年秋に暗渠整備予定。
- ◆耕作放棄地が農地バンクに集まり、5haに集積。放棄地増加防止に効果。

4. 都市との交流

- ◆栗園整備、観光農園を開設。
- ◆子供たちの農作業体験。農作業体験や収穫祭を開き、交流を行う。
- ◆企業からの研修を受け入れる。

- ◆栗園、観光農園は見送り。栗に関しては栗農家に配慮し、着手しない。
- ◆農業体験、産業振興祭への出店は実施。独自の収穫祭を行いたい。
- ◆企業研修受け入れや宿泊して農業体験などは計画段階。

[成果と今後の展開方向]

1. 全体的な成果

- ◆タマネギはチャレンジしたが、不作と単価下落で休止に。
- ◆カボチャの作付面積は令和元年度に約1haへ。評価も高く、今後の展開にも期待したい。
- ◆学校給食は、法人としては2品目に集中。ただし、個人農家の納入も含めれば7品目を超える。



2. 今後の展開方向

- ◆稲作以外の作物導入の難しさ。新たな作物の栽培技術の学びが求められる。
- ◆補助金で作ったハウスをうまく活用できていない。活用策の検討が急がれる。
- ◆学校給食でも野菜の規格が求められる。「売れる野菜」づくりの技術習得が必要。

